
基本評価シート

様式

(福岡県 環境部自然環境課)

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名（※1）	令和6年度福岡県指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務		
	福岡県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画基礎調査及び評価業務		
都道府県名	福岡県	担当者部・係名	環境部自然環境課野生生物係
担当者名	平山、佐藤	担当者連絡先	092-643-3367
捕獲実施事業者	・株式会社九州自然環境研究所 (認定を受けている)	予算額（※2）	17,423,000円
		予算額の内捕獲に要する経費（※3）	7,841,000円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和6年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
200頭	212頭	106.0%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
1,000(中央値)	農林水産物被害額の低減	なし
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲(個体数調整)
メッシュ毎に集計するため算出不能	0頭	0頭

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

福岡県のシカの生息数は、令和2年度末で27,400頭と推定されており、生息数の増加、生息域の拡大に伴い農林業被害、生態系被害が深刻化している。

このため、本県では「福岡県第二種特定鳥獣（シカ）管理計画」（以下「特定計画」という。）を策定し、狩猟期間の延長やくくりわなの規制緩和等により狩猟や有害鳥獣捕獲によるニホンジカの捕獲を推進した。この結果、平成23年度には3,914頭であった捕獲数が令和2年度には11,297頭に増加した。

しかし、耶馬日田英彦山国定公園地域においては、英彦山や犬ヶ岳が霊山として信仰されてきたこと、登山者が多く、狩猟の実施が困難であることなどから捕獲が進んでいない。

捕獲個体の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 個体の身体の一部（耳、尾など） <input checked="" type="checkbox"/> 写真（詳細を記載：個体番号及び捕獲日を捕獲した個体の胴体にスプレーで記載するとともに、両耳としっぽをスプレーで着色し、記載内容及び着色の状態が明確である写真を撮影。胴体への記載が困難な場合は、必要事項を記入した用紙を入れて撮影。） <input type="checkbox"/> その他（ ） ※複数チェック可。
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について <input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。 <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可
環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。 <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。 <hr/> わなによる錯誤捕獲の未然防止について <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：輪番捕獲を実施することで錯誤捕獲を削減。また、中型獣の錯誤捕獲対策として、くくりわなの荷重調整を実施。） <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。 <hr/> 鳥類の鉛中毒等について <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。 <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。 <hr/> 鉛製銃弾について <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。 <input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。 ※捕獲個体への接近が危険な場合に限り、止めさしの手法として銃器の使用を認めている。今年度は銃器を用いた止めさしはなかった。
安全管理の体制	安全管理規定を順守し、捕獲従事者及び地域住民の安全確保、危険回避を徹底。作業開始前、終了時には県に連絡を実施。緊急時の連絡体制はあらかじめ定めて実施。
捕獲従事者の体制	【雇用体制】 捕獲従事者数：6人 （内訳） 正規雇用者：6人、期間雇用者：0人、日当制：0人

3. 令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点	
【目標達成】	<p>評価： 捕獲目標達成率は106.0%（目標200頭に対して、捕獲数212頭）で、目標を達成した。</p> <p>改善点： 捕獲目標は達成されたが、生息密度指標である糞塊密度調査およびカメラトラップ調査、両指標とも上昇傾向を示している。特に英彦山地区においては、令和5年度、6年度の2年連続で上昇し、犬ヶ岳地区の生息密度指標を上回っている状況である。 本事業対象地域では、複数の生息密度指標を6年分蓄積できたことから、階層ベイズモデルなどの新しい個体数推定法を導入することが可能となる。捕獲目標を達成したにも関わらず、生息密度指標が低下を示していないことから、捕獲目標の設定が適切でない可能性が考えられる。そのためより確度の高い個体数推定を行い適切な捕獲目標の設定を行うことが必要である。</p>
【実施期間】	<p>評価：捕獲は7月～12月に実施し、この期間中に捕獲目標を達成することができた。高標高域では、冬季に入ると気温が下がり、道路や地面、くくり罠等の凍結が生じるため、シカ1頭の捕獲に対しての搬出、埋設する労力が大きくなりすぎるため、晩秋季（11月）までに捕獲を終えた。管理捕獲の実施期間については妥当であったといえる。</p> <p>改善点：引き続き、捕獲適期における捕獲を実施することで捕獲目標の達成を目指す。</p>
【実施区域】	<p>評価： 本事業対象区域である耶馬日田英彦山国定公園の範囲の内、上毛町を除く範囲を管理捕獲実施区域とした。なお東峰村に該当する区域は本年度も災害復旧工事のため、管理捕獲を実施していない。捕獲地点は、管理捕獲実施区域内の道路、林道沿い周辺での捕獲が多く、高標高域においては捕獲がほとんど実施されなかった。</p> <p>改善点： カメラトラップ調査の結果から、高標高域においては撮影頻度が比較的高い状態が継続している。一方、令和5年度までは、捕獲のしやすい道路・林道周辺においてはシカの撮影頻度が低い傾向が見られたが、局所的にシカの撮影頻度が高い地域が認められた。本事業の主たる目的である森林生態系への被害を抑制するためには、管理区域全域でシカの密度を低下させる必要があることから、シカの撮影頻度の高かった犀川帆柱・英彦山運動公園周辺および高標高域での捕獲を強化する必要がある。</p>
【捕獲手法】	<p>評価：本事業対象区域は、登山客が多いことから、銃猟は行わず、くくりわなによる管理捕獲を実施し、トラブルなく、捕獲作業を遂行することができた。令和6年度の捕獲効率は0.026であり一般的なくくりわなの捕獲効率（0.01※）と比較すると高い捕獲効率であった。令和5年度の捕獲効率は0.020であり、令和6年度は僅かに上昇した。 ※九州森林管理局（2013）</p> <p>改善点：引き続き、銃猟は行わず、くくりわなによる捕獲を実施する。捕獲効率は毎年低下傾向であるものの、依然として高い捕獲効率を維持しているため、捕獲方法には問題ないと考えられる。</p>

2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：捕獲従事者には、英彦山及び九州各地でのシカ管理捕獲の経験豊富な専門的捕獲技術者を配置し、複数名1班体制で作業交代制を組み捕獲を実施したため、期限内に捕獲目標を達成することができた。
	改善点：引き続き、シカ管理捕獲の経験豊富な専門的捕獲技術者を配置し、捕獲目標の達成を目指す。
【個体処分】	評価：捕獲個体の全てを、事業実施区域内に予め掘削した埋設穴への一括埋設を行い、捕獲個体ごとの埋設処理作業を効率化した。わな設置範囲の拡大や見回り作業等、捕獲向上を目的とした作業に時間を要したことにより、食肉処理施設への引き渡しによるシカ肉の有効利活用はできなかった。
	改善点：引き続き、一括埋設による処理作業の効率化を図る。また、自家消費や食肉処理施設への引き渡しを積極的に行い、地元自治体や食肉処理施設と協力、連携した、地域資源としての利活用の促進を目指す。
【環境配慮】	評価：捕獲個体は埋設及び食肉利用を行い、個体の放置はしていないことから、環境へ影響はなかった。
	改善点：引き続き、捕獲個体の放置は行わず、適切に埋設等を行うことで、環境への影響に配慮する。
【安全管理】	評価：捕獲作業の周知、注意喚起看板の設置等、安全管理規定を順守した捕獲作業を実施することで、捕獲従事者及び地域住民の安全確保・危機回避が徹底された。
	改善点：引き続き、安全管理規定を順守し、捕獲従事者及び地域住民の安全確保・危機回避を徹底する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
<p>評価：事業実施区域は霊山として知られ、信仰の対象となっていることから、シカの捕獲個体への止めさし、その後の搬出及び埋設等の作業は、参拝者や周辺住民へ不安を与え事業継続に影響が生じないように細心の配慮を行った。また、事業実施にあたっては、事業実施区域周辺で活動する地元の狩猟団体等と調整し、地元狩猟者と情報共有を行い事故防止に努めた。特に九州一斉捕獲実施期間中は、くくりわなの稼働を一旦停止するなど事故防止に努めた。</p> <p>改善点：引き続き、地域住民や地元狩猟者等に十分な配慮を行うとともに、地元区長や鳥獣保護管理員への連絡を徹底することで、地域との関係に問題を生じさせないように、また事故防止に努める。</p>	

4. 全体評価

管理捕獲目標は達成したものの、糞塊密度調査およびセンサーカメラ調査の結果から、シカの生息密度は低下していないことが考えられる。そのため、捕獲目標の設定が過小である可能性があることから、より精度の高い個体数推定方法を取り入れ、捕獲目標の再検討が必要である。センサーカメラ調査の撮影頻度の分布から、一部地域で局所的に撮影頻度が高い地域が確認されているため、撮影頻度の高い地域において重点的な捕獲が必要と考えられる。また、本事業の目的である森林生態系への影響低減には至っていないことから、高標高域も含めたさらなる捕獲の強化を継続的に行うことが必要である。捕獲作業面では、適切な実施体制の下で、大きな事故は無く、管理目標を達成できた。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

事業実施区域は、特定計画のなかで「犬鳴・英彦山地域」の「保護区域」に区分されている。当地域は広域、連続的にまとまった分布域で、農林産物被害が増大している地域であることから、特定計画に掲げる「捕獲を特に強化する必要がある地域」と位置付け、指定管理鳥獣捕獲等事業によるシカの管理捕獲を行っている。また、事業実施区域は、古くから霊山として信仰の対象になっており、登山客や観光客が多く訪れることから銃猟の実施が困難であり、これまで捕獲が進んでこなかった地域でもある。その地域において、今年度は捕獲目標の106.0%となる212頭を捕獲していることから、特定計画の目標達成に寄与しているものと考えられる。

4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
① 捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input type="checkbox"/> 事業区域ごと <input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ <input checked="" type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
② 捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input checked="" type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報（ ）	
③ 目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④ 捕獲努力量	<input type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック	
捕獲位置の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input checked="" type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図	<input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図	<input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input checked="" type="checkbox"/> CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図	<input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input checked="" type="checkbox"/> SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題		

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果 (必須となる記録項目)

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数^{※1}: _____ 人日

事前調査人日数概数^{※2}: _____ 人日

出猟 (捕獲作業) 人日数: _____ 人日

※1: 事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 日数の合計

※2: 事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

項目	令和 年 (事業年度の値)	令和 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (銃猟) のべ人日数	_____ 人日	_____ 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

②わなによる捕獲

外業の人日数総数^{※1}: _____ 273 人日

事前調査人日数概数^{※2}: _____ 8 人日

出猟 (捕獲作業) 人日数: _____ 265 人日

項目	令和 6 年 (事業年度の値)	令和 5 年 (事業年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (わな猟) わなの稼働総数 (わな基×日数)	8,100 基日	13,275 基日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※1: 事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 人日数の合計

※2: 事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和年 (事業年度の値)	令和年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②目撃数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 ^{※1}	CPUE ^{※2}	SPUE ^{※3}
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数/のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数/のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和6年 (事業年度の値)	令和5年 (事業年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	212 頭	259 頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	0.420	0.471	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	0.25	0.15	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和6年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数 ^{※1}	CPUE ^{※2}
<input checked="" type="checkbox"/> くくりわな	212 頭	8,100 基日	0.026 頭/基数 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基数 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 囲いわな	頭	基日	頭/基数 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ()	頭	基日	頭/基数 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE=捕獲数/わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数: _____ 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数: 0 個体

[適正な捕獲が実施されたかを確認する手法]

個体番号及び捕獲日を捕獲した個体の胴体にスプレーで記載するとともに、両耳としっぽをスプレーで着色し、記載内容及び着色の状態が明確である写真を撮影。また、埋設の様子の写真を個体番号が判別できる形で撮影。捕獲地点を移動後に速やかに報告。

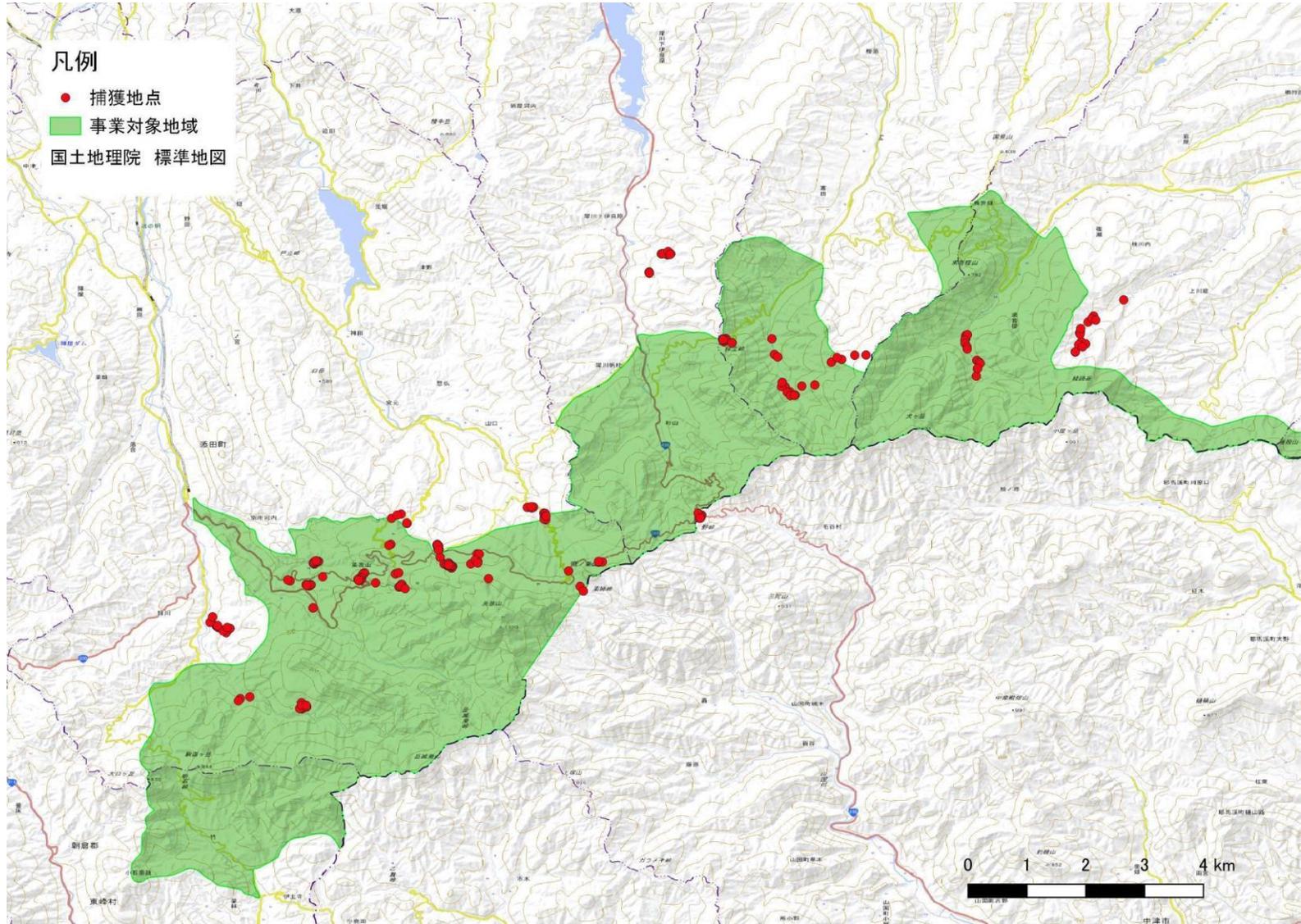


图 3-1 捕獲地点图

